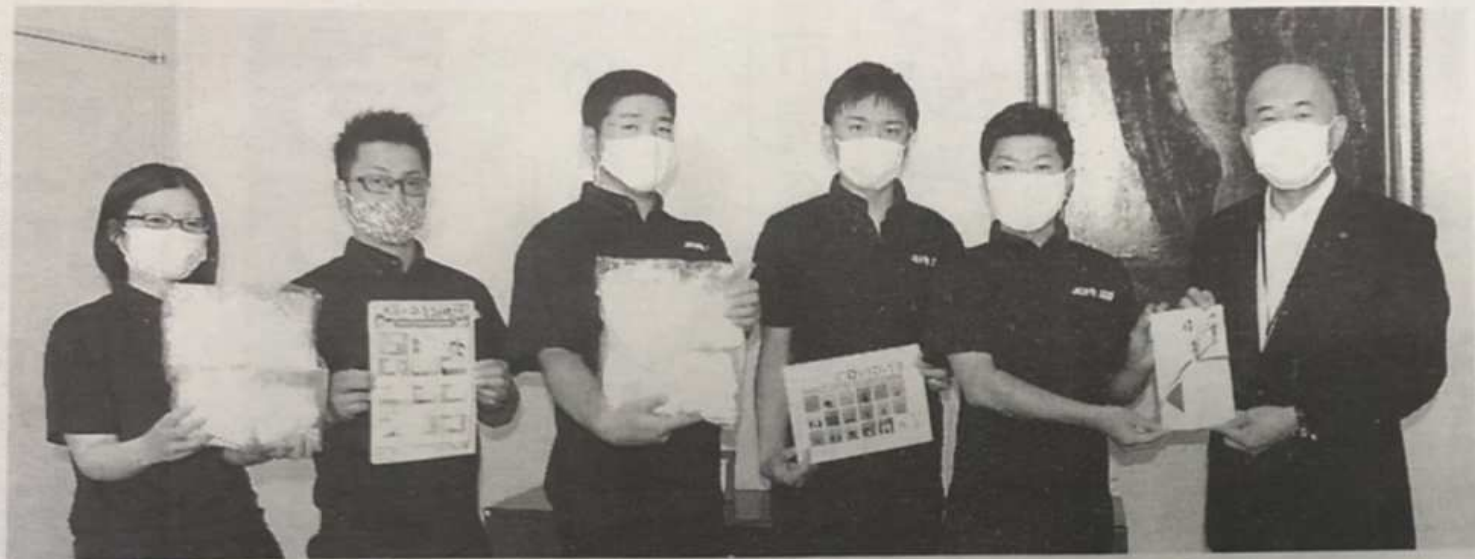


西尾JCCがマスク寄贈

市教委へ 新1年生用で1581枚



稲垣教育長(右)に目録を手渡す
村瀬理事長ら

一般社団法人西尾青年会議所(村瀬智之理事長)は十一日、西尾市内の新一年生たちの新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、西尾市教育委員会に布マスク千五百八十一枚を寄贈した。

同会議所では、青少年育成委員会(齋藤幸久委員長)が、教育現場やPTAなどに新型コロナウイルスの感染拡大防止に関するヒアリング調査を実施。その結果、子ども用のマスクが不足しているという現状が分かった。

これを受け、会員にマスクを製造している事業所があったことから、今回、製造を依頼。六月予定の学校再開に向け、この春、入学したばかりの新一年生に「安心・安全な学校生活」を提供しようとして、西尾市教育委員会に布マスク千五百八十一枚を寄贈することにした。

このほか、手作りマスクの作り方や、半田青年会議所と共同で推奨している十八項目にわたる新型コロナウイルス対策を記載したチラシも届けた。

この日、村瀬理事長をはじめ、永江秀光副理事長、榊原裕美専務理事、鈴木一磨常任理事、加藤直人委員が市教委を訪れ、稲垣教育長に寄贈品を手渡した。

稲垣教育長は「新一年生は、学校に二日しか来ていない。今週から学習連絡日を設けて学年を四つに分けて登校する。六月から再開予定だが、幼稚園や保育園から上がったばかりで不安もあると思う。子ども用マスクは不足しており、ありがたい申し出だった。チラシも教材で使える。有効に活用したい」と謝意を述べた。

「仁吉まつり」初の中止 新型コロナウイルスの緊急宣言で

義理と人情に生きた幕末の侠客(きょうかく)「吉良の仁吉」(一八三九〜一八六六)をしのぶ第四十回仁吉まつりは、仁吉の眠る西尾市吉良町の源徳寺で六月七日に行われる予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う県の緊急事態宣言を受け、初めて中止することになった。

当日は、墓前祭法要や吉良小唄保存会による吉良小唄パレードをはじめ、餅つきやビンゴ大会、

地元中高生らによる「Fオーマンス」、飲食物販が軒を連ねる「仁吉の楽市楽座(青空市)」も予定されていた。墓前祭法要については、同寺の関係者の営むという。

村瀬理事長は「子どもたちの安心・安全、感染拡大防止に役立てると寄贈させていた。皆さんに、安心して学校生活を送ってもらえるようにお役立ていた。おれはと思っている。学校の再開に少し近づいており、マスクの作り方や十八の対策を掲載している。コロナ18というチラシも付けている。家庭におけるマスクを作る機運、感染防止に対する意識の向上も図ってほしい」と述べた。